



THE JAPAN INTERIOR DESIGNERS' ASSOCIATION

29号 (67年5月発行)

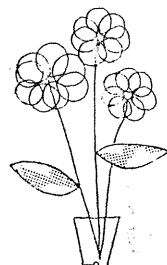
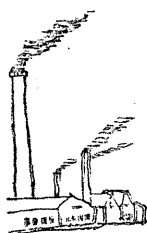
- ① 5月の声
- ② 理事会報告
- ③ 42年度事業活動一覽表
- ④ 本部会計中間決算
- ⑤ 42年度 本部事業計画
- ⑥ 41年度 各部会報告
- ⑦ 月例会報告
- ⑧ 事務局だより
- ⑨ 新入会員紹介
- ⑩ 会員近況

編集後記

日本室内設計家協会

5月の声

デザイン団体と万博



榎 田 均

来春カナダ・モントリオールで開催される万博に視察団が日本の各分野からチームを組み、出掛けるという声をよく耳にしていますが、その中にデザイナーや、デザイン関係者も多くいる事を聞き、日本も大したものだと感心しました。他の国で開かれる博覧会のためか未だ対岸の出来ごとの的に見やすいのですが、我が国でも“EXPO70”としてあと約1,000日で大阪、千里山会場で実施される事は既に皆様もご承知の事と存じます。

しかし、私達にはその国際的な大事業も現実感としては余りにも乏しいイメージしかもち合せていないのですが、私だけの不勉強さでもなさそうなので改めて淋しさを感じます。まあこれはさておき、そのテーマに「人類の進歩と調和」を主軸として日本の産業を世界に示すときに私達、デザイナー団体は、何を考え、何を進めるべきか、充分日頃の研讃を反映すべきであると当然考えます。

敢てこんな悪事をするのも、余りにも、この様な国際性をもつた大事業に関しても、デザインという事が浮き草的にしか扱われていない現実をみせつ

けられるからです。それ程デザインと言うカテゴリーが日本に於ては底の薄いものである事を私達デザイナーは先ず深く認識することから出発する必要があると思います。

なぜかと理由になる事例を並べてみましょうか、

- ① 根幹になる企画面にデザイン分野の組織が非常にあいまいであること、
現在では主催者側で適当に利用出来得る程度の委員会はあるそうだが責任分野も明確でない、又活用されているとも思えない。
- ② 万博に於けるデザインポリシーも一貫した形で明示されているわけでもない、勝手に決めて夫々が動き初めているに過ぎない。
- ③ 万博とデザイン行政との関連も全然考えられていない。
- ④ 肝心のデザイナー陣営も明確な推進方向を打出しているわけでもない。

このように拾ってみると一体誰が何を収拾して行かなければならないか、よくわからない乍らも何か駒を進める役割を自覚しなければならないようである。万博事務局があるのに大きなお世話かいと考えるのは簡単だが問題はそれでは解決しそうにもない所にどうやらデザイン界の鍵があずけられているようです。

参考までに万博事務局から聞いた推定入場者数にしても1日、約16万4千人が見込まれていて、この人員数は浜松市の人口に匹敵すると言われ、先ずこれら人の消耗するトイレトペーパーだけでも1日にトラック13台分にもなると言われています。その補給を毎夜行なうにしても、大変な事であり、その他、飲物の他食料、消耗品、廃品、ゴミの処理からこれらを管理する人員まで考えて行くと数字を考えただけでもいやになる様な物量が動くわけです。従つて催しものは「キワ物」的従来の考えではとても解しきれない、都市計画的構想で進めるゆえんもここにあると考えられます。

職業人としてのデザイナーが、デザインを一般が理解してくれないからぼやき、パンツを作つてPRするより、世界の目の集まるこの様な機会を有効に把握し、行動することの方が遙かに生きた実践になることは申すまでもありません。私は斯くあるべきの提案はしておりませんが、これからでも皆様と一諸になつて先ずデザイン陣営の万博に対する指針を1日も早く打出すことではないかと考えます。

理 事 会 報 告

- ・ 一般経過報告
- ・ 審議事項
 - 1) 42年度基本方針
 - 2) 中間決算
 - 3) 定款改定
 - 4) 年鑑発行
 - 5) J F C 協力
 - 6) 九州支部
 - 7) 42年度予算
 - 8) 正会員入会審査

41年度の第2回理事会、支部合同委員会は2月25日及び26日の両日にわたり奈良市、あやめが池畔「桃山荘」に於て行なわれた。以下はその議事報告である。

出席者 東京支部 ○中村 介 ○山口雄次郎 ○豊口克平 野口寿郎

○竹内篤 内堀繁生 ○泉修二

大阪支部 ○森岡正 ○飯田俊彦 ○岡村実 ○川崎浩 ○渡辺敏雄

柏原秀夫 野口茂

○印＝理事

委任状は東京支部理事3票、委員3票、大阪支部理事無し、委員3票であつた。

① 理事長一般経過報告（中村）

2月以降の主なものの成果として、デザイン団体協議会発足、年鑑発行に対する活動、法人格取得に関する協議検討が報告された。

（41年度事業経過報告一覧表参照）

② 支部長報告

：東京支部長（山口）

理事長から報告された議題についてふたたび東京支部側からみた型で一般報告が行なわれた後、Gマーク問題の報告に移った。昨年末よりデザイン団体協議会で審議されていた通産省のGマーク商品に対する批判を、より客観的に把握する為には単なる論議よりも正確な資料や多くの声を聞く必要があるとのことで東京支部ではGマーク特別研究会を設置し、その委員に山口、狩野、川上、古藤諸氏が決り活動に入ったことが語られた。

：大阪支部長（森岡）

41年度の基本方針として、会員拡大と若返りを目標においた結果、正会員8名、準会員6名、賛助会員6社の入会を得た。しかし10月以降の月例会に於ては委員の努力による好き画にも拘わらず流会が続いた。結局この事に関しては会員意識の問題であるとしてアンケートによる意識調査を行なったことが報告された。

③ 各事業部報告

：渉外部会（山口、森岡）

デザイン団体設立準備会に参加し9月12日発足させ、又デザインハウス特別展示会に第1回の仕事として参画したことが報告された。この他1月11日、伊藤得時（正会員）、2月15日、国井喜太郎両氏が死亡され、それぞれ岩瀬要三氏、中村、山口両氏が葬儀に出席したことが衷誌の意を表すると共に報告された。なお渉外部として計画していた中国視察団は延期になったことが確認された。

：出版委員会（渡辺優、川崎）

三一書房と交渉しほぼ決定をみていた年鑑は12月下旬に当出版社不況のあおりを受け、条件が種々変ったことが報告された。（この件はふたたび審議事項として後述）

：広報部会（泉、野口）

9月に行つたアンケートによる結果、会報の毎月発行、資料的内容の充実、装てい等の問題が抽出されたことが報告され、そのまま提案として審議された。発行は予算獲得の時点に於て毎月発行、装ていはルーズリーフ様のものに變更してとじられるようにすることが決定された。なお内容充実の為の組織作りは新年度より計画されることになった。

：標準仕様書委員会（竹内、川崎）

7月に全体会議が持たれ、審議の結果、一般材料、箱物、椅子の各分科会に発展し、それぞれの研究体制に移ったことが報告された。

：事務局（竹内、泉、飯田）

当協会の41年4月に於ける会員数は正会員53名、準会員19名、賛助会員 社で42年2月現在に於ける増減は正会員4名、準会員8名、賛助会員 社の増で退会2名（内1名死亡）である。会費の徴収率は東京90%、大阪63%で、さして低率であるとは言えないが、なお財政的に非常に苦しく、新年度予算に対する方向づけが望まれると訴えた。

審 議 事 項

① 42年度基本方針並びに事業計画（中村）

以上の議題に関しては別紙後載の如く審議された。

② 12月中間決算並びに配布金額に付いて（内堀）

中間決算は別紙の如く報告され承認された。配布金は12月31日の会員総数により分割し東京支部19万9千円、大阪支部8万7千4百円、九州支部1万3千6百円と決定した。

③ 定款改正

この事項は本協会運営上の改正と法人格取得に関する改正の2項に分けてそれぞれ審議が行なわれた。運営上の問題としては事務局の確立、会報の充実にともなう予算の拡大として、又事業運営の質的充実の為の任期延長（2年1期）として論議され別紙の具体方針に加味された。又法人格取得に関する改正は、単に条文の改正に関してのみではなく、その意義等についても論議されたが通産省の我々に対する判断がどのように行なわれるかが先決であることが確認された。この2項を含めた定款改正は協会の運営自体に影響が大きいと現行定款の条項により、理由書を付して総会への提出事項にすることを決議した。

④ 年鑑発行

出版委員会報告で前述した状況から、三一書房との交渉を中止し、美術出版社を含めた他社との再交渉を行ない、その結果によつては自費出版も止むを得ないという結論を得た。

⑤ J.F.C 協力について

この件に関する協力は基本的には賛成であるが、開館の為の展覧会協力量に限定し、それ以後の量産家具デザインの協力は個人にまかせるべきであるとし、協力方法を的確にする体制を作ることが急務であるとの結論を得た。これによつて、各支部から展覧会実行委員が選ばれ交渉に当ることになった委員は以下の通りである。

東京支部	山口、狩野、榎田、内堀	4 名
大阪支部	川崎	1 名

⑥ 九州支部について

活動が停滞気味であるのは、支部としての会員数が少ないのと、会員相互が距離的に離れすぎているのではないか、何らかの形でバックアップせねばならないのではないかと議論がされたが、九州支部に実情を打診調査の上、次期理事がに再提案することになった。

⑦ 42年度予算

協会の発展には事務局の強化を必要とするが現状の本部並びに東京支部では女子事務員1名のみであるし、大阪支部に至つては独立の事務所さえ持っていないことが指摘された。又広報部報告や定款改正の項で議論されたように予算の為に活動が困難をきたしている状況を考へて、会費の値上げによる予算の増大化を計らねばならないとの話し合いが行なわれ、次期予算計上にはこの点を勘案することが決議された。

⑧ 正会員入会審査

以下の諸氏が審査対象として上げられ、いずれも承認された。

東京支部	今 崎 務	大阪支部	拓 植 厳 吉
	北 原 進		藤 野 義 弘
	小 泉 克 也		児 玉 潤 吉
	樋 口 敏 男		葭 原 基
			河 原 啓 介
			房 谷 守 啓
			松 田 寿美夫

41年度事業活動一覽表

42-2-25

			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	2	3
本部活動			・新年度活動方針並びに選挙対策	・総会準備 ・中国視察団募集 5/10 デザイン団体仮準備会	・会員相互の研究活動の促進 ・理事会議案検討	・デザイン団体発会促進 ・法人取得のための研究 7/23 理事会(天城)	・TETRO 特別展準備	9/12 デザイン団体協議会発会(プリンスホテル) 9/12 JETRO 特別展開催		・会員名簿作成準備 ・会員証作成準備	→		2/25 理事会(奈良にて)		
支部活動	東京支部		4/22 通信投票による役員選挙第1回新役員会	5/16 第2回委員会 5/30 総会	6/15 第3回委員会	7/13 第4回委員会	8/13 第5回委員会		10/17 第6回委員会	11/9 第7回委員会	12/19 第8回委員会	1/19 第9回委員会	9 10		
	大阪支部			5/13 通信投票による役員選挙	6/17 第1回委員会 6/25 第2回 "	7/2 第3回委員会 7/9 総会 7/16 第4回委員会 7/25 第5回 " 7/29 第6回 "	8/6 第7回委員会 8/24 第8回 "	9/7 第9回委員会		11/2 第10回委員会	12/3 第11回委員会				
財務部活動			・支部決算 ・41年度予算案検討			・賛助会員新規加入促進	・役員全員で会費徴収を行う	→	→		中間決算書作成	→			
渉外部活動				5/10 デザイン団体仮準備会	6/3 デザイン団体仮準備会 6/20 " "	7/11 デザイン団体発会式準備会 7/25 " "	8/10 左 全 8/25 "	9/12 デザイン団体発会式							
広報部活動			(23号発行) 4/10 第1回部会	5/16 第2回部会	(24号発行) 6/14 第3回部会 6/21 第4回 " 6/29 第5回 "	(25号発行) 7/26 第6回部会	(26号発行) 8/3 第7回部会 ・アンケート収集活動	9/24 第8回部会(天城にて)	(27号発行) 10/6 第9回部会	11/9 第10回部会 11/22 第11回 "	(28号発行)	1/26 第12回部会	2/23 第13回部会	(29号発行予定)	
事業部活動	月例会委員会	東京支部		5/30 川澄明男氏 スペインの旅 スライド会	6/27 R.ンテリアデザインとは」 討論会	7/ 全 左		9/24 北山深川工場見学会					2/1 新年会(プリンス会館) 2/17 公団住宅実体調査報告会		
		大阪支部					8/6 新カスビル見学会 8/24 「女性デザイナーと室内設計」懇談会	9/25 学生デザイナーと懇談会	10/22 「障壁画の流れ」土居次義氏	11/26 松下電工見学	12/17 サントリー山崎工場見学会				
	標準仕様書委員会					7/6 第1回全体会 7/14 一般材料分科会 7/22 箱・椅子 " 7/26 椅子 " 7/28 一般材料						1/15 一般材料分科会	2/21 一般材料分科会		
	出版委員会		・前年度の方針により美術出版社と打合せ進行	→	→	美術出版社社長死亡のため中止 新に三一書房と交渉				→	・出版界不況のため出版困難				
	資料調査委員会														
会員入退会移動数表	正会員	東京	100			2(本多 眞原)			1(北原)						103
		大阪	45			2(平井)			1(坂野)						46
		九州	8			1(白井)									7
			(計 153)												
	準会員	東京	183(中村 竹沢 大阪)						3(小林 水谷 野原)						24
		大阪	0					2(宮本 岸本)							2
		九州	1												1

本部会計中間決算（東京支部保管分）

昭和42年1日末日

収入の部

科 目	予 算	決 算	摘 要
前期繰越	210,598	210,598	
会 正 会 員	360,000	231,600	
費 準 会 員	26,400	21,700	
入 賛 助 会 員	800,000	390,000	他 近忠 60,000- 松下 100,000- } 入金済
入 会 金	5,000	6,500	
雑 収 入	1,000	5,237	
大阪よりの送金		200,000	
合 計	1,402,998	1,065,635	

支出の部

科 目	予 算	決 算	摘 要
会議費	145,000	51,803	
理事 会	10,000	10,040	広報部、標準仕様研究会
小 委 員 会	176,000	130,000	実費の1/2
人 件 費	5,000	8,840	理事長大阪出張その他
交 通 費	3,000	3,120	
消 耗 品	40,000	51,240	会報発送その他
通 信 費	165,750	127,500	実費の1/2
賃 借 料	10,000	43,000	デザイン団体協議会 35,000 著作者団体協議会 6,000
渉 外 費	50,000	55,640	名簿、定款、要望書、その他
印 刷 費	9,000	8,430	実費の1/2
光 熱 費	70,000	18,000	〃
什 器 備 品	2,000	1,760	〃
雑 費	200,000	117,350	
会 報 費	10,000	0	
調 査 費	3,000	0	
雑 費	0	0	
配 布 金	504,248	438,912	
予 備 金	1,402,998	1,065,635	
合 計			

註 ☆この他什器備品天童36,400-を2月に支払い本部支部1/2づゝ加算される

☆会報費は1回15,000-～23,000-位である

4 2 年 度 本 部 事 業 計 画

☆基本方針

4 3 年 1 1 月協会発足以来、8 年余を経過し、当初からの念願であつた、インテリアデザイン界の確立が進められるに従つて、協会の社会的責任も大きくなり、会務も増大した。

このような中で迎える新年度は、事務局を強化し法人格の取得をめざす等、会の基盤を強化し次の事業を促進するとともに、技術団体としての協会の性格を明確にし、教育・研究機関で基礎的な研究を行なっている人達や、照明・織物・ルームアクセサリなど、インテリアに関連する各分野のデザイナーを広く会員に含めることによつて、会の発展を計りたい。そして職業的確立についても、技術的団体の性格を尊重しつつ、これを促進する。

☆具体方針

1 事務局の強化

協会の事業は事務局の強化なしには促進しない。今まで会員や役員の犠牲的な奉仕によつて運営されてきたが、現状ではこのようなやり方では社会的責任を果せない段階にきている。それがため、本部及び東京支部は事務局員を2名とするとともに、大阪支部として独立した事務局の設置を計る。

これらの会務の増加と郵送料等の値上がりなどから、会費の値上げはさけられなくなっている。又、将来は専任事務局長が必要になるものと思われる。

2 年鑑の発刊

三一書房との交渉が出版契約の段階まできて、まとまらなかったのも、再度他社とも交渉し、場合によっては自費出版でも出版する。

本年度の重点事業として、これが実現を計りたい。

3 法人格の取得

現在通産省と折衝中であるが、年度内には定款改正など、法人化に関連して必要な、手続きを終り、早ければ年度内に法人団体として再発足するようにしたい。

4 他団体との連携

デザイン界の国際的な交流及び産業界から各種事業での協力申し入れなど対外的な活動はますます多くなつて行くものと思われる。

これらについては、デザイン団体協議会とも協力し、会の主体性を尊重しつつ、必要な協力を行ない社会的責任を果たす。

5 会報の増刊

本部と会員をむすぶものとして、会報の役割はますます増大している。それがため発行回数を増やすとともに内容を充実したい。

6 支部活動の強化

会員相互の交流については支部活動に依存する問題であるが、月例会の確実な開催を中心として、各種の交流の場を広げるよう努力する。

九州支部については、転勤その他の理由で会員が減つて支部運営が困難になっているので、今後のあり方を検討する。

4 1 年 度 各 部 会 報 告

新年度を迎えるに当り、各部長より過去1
年間の活動を振り返り報告やら反省をよせて
いただきました。

◇ 渉 外 部

部長 狩 野 雄 一

J.I.D 創立以来すでに拾年を経過し、わが国のデザイン各分野の活動はいちじるしい進歩と発達のおとを示すとともに各デザイン部門の専門化の傾向が強くうちだされてきたと同時にデザイン団体の相互の連絡、総合ということも数多くなりつつある。当協会も内に向つての活動（研究、調査、対策）とともに一方外に向つての活動、他の団体、業界、官庁、海外などとの渉外的業務も漸く活発にならんとしている。

1 日本デザイン団体協議会（C D A F）の発会

かねがねデザイン各団体の中で現在におけるデザインの分化と総合」について真剣に論議されていたが、たまたま昭和41年2月通産省デザイン課改組問題に際してJIDAとの合同会議を行なつた時「デザイン団体の共通の問題を解決する場」をつくる必要性が強く主張され、JIDA、室内、パッケージ・クラフトを中心に発足準備がなされ、当協会から渉外委員の狩野、山口両理事、C D A Fの準備委員となつた。その後数回の準備委員会を経て9月12日東京プリンスホテルで記念発会パーティーが関係官庁及び団体の参加をえて盛大に行なわれた。本協会員の参加は38名（関係記事 会報27号 20・21頁参照）

C D A F の組織と委員

委 員 長	豊 口 克 平
副 委 員 長	芳 武 茂 介
事 務 局	J I D A 事務局
監 査	室内設計家協会
委 員	J I D A 豊口克平 秋岡芳夫
	室 内 狩野雄一 山口勇次郎

2 デザインの著作権問題

1 昨年来継続的に論議されてきた一連の著作権問題（音楽、文学、文芸、映画、演劇、写真等）にあたつて、デザイン団体のこれについての運動は残念ながら活発とはいえなかつた。今年に入り文部省では著作権改正案を国会に提出しようとしているが、この改正案では応用美術の保護を事実上除外しようとしている。これについて当協会ではJIDA、クラフトのデザイン団体と協力の上特にこの問題について知識の深い中村理事長の出馬によつて強い主張をつづけているが、一方では産業界のこれを阻止しようとする強い動きがあり、この問題はかなり難行するものと思われる。

これについては会報28号3頁の「無視される応用美術の著作権」を参照されたい。

なお、この問題は日本デザイン団体協議会の発足により今後は同協議会でとりあつかうことになつた。

3 ジャパンファニチャー、センター（J.F.C）への協力

数年来インテリア商品の主体ともいふべき家具の流通機構の問題が業界の中で真剣に論議されるようになった。生産者（メーカー）とデラー（販売者）との明確な流通過程こそ良質家具の普及につながるものである。アメリカ各地にみられるマーチャンダイス・マート（The Merchandise Mart）あるいはファンチャー・マート（Furniture Mart）などに基本構想をおき、さらにわが国の事情を加味したものとして有力メーカー百数十社の出資によつてジャパン、ファニチャー、センターが設立され、今秋9月落成しようとしている。このことはわが国家具発展に大きな1ページを加えることであらう。J.F.Cより協会に対して開館のデスプレー、新製品のデザイン、その他の企画運営について協力、援助の依頼があつたので理事会の決議の上協力することになつた。

これについてすでに何回かの準備委員会が開かれ、専門委員会がもたれ協会外からも特別委員として清家清、山口文家、隈田隆治氏なども加えて目下進行中である。協会委員（豊口克平、山口勇次郎、鈴木富久治、狩野雄一、内堀繁生、川崎浩、榎田均）

・出版委員会

委員長 渡 辺 優

懸案の年鑑発行については、一昨年来会員作品の写真提出依頼、選考等を行ないながら、出版社との折衝段階で難航し、昨年8月以降は三一書房との間で広告依頼のための見本印刷物の準備にまで進んでいたところ、2月に入つて出版社側からやや予想外の条件が提示された。それによると広告収入－224万円、及び451冊分前渡金として現金100万円を事前に協会側で保証するなどの点で問題があり、協会としては有利な条件ではないので理事会において同出版社による発行を断念することに決定した。

今後はこの条件より合理的な条件での出版を、他の出版社と改めて交渉することとなり、2、3社の案が出されている。

出版社が決定次第、前回の作品写真募集後の新しいものの追加提出を依頼する予定。

・標準仕様書委員会

委員長 長 大 作

昨年度始めからせつかく活発に動きはじめた仕様書委員会も各委員多忙のため、動きがにぶくなり、一般材料分科会のみが細々と動いている状況です。

昨年度事業部報告以後の会合の状況は次の通りです。

椅子類分科会（第2回） 昭和41年8月12日 於 事務局

出席者：田中聰行、伊藤利一、長大作

一般材料分科会（第3回） 8月19日 於 事務局

出席者：西海健彦、鎌田浩三郎、梶原敏夫、鹿毛宏一、長大作

一般材料分科会（第4回） 10月27日 出席者少なく流会

一般材料分科会（第5回）昭和42年2月 6日 於 事務局

出席者：鎌田浩三郎、荒川清、鹿毛宏一、長大作、渡辺優

一般材料分科会（第6回） 2月21日 於 事務局

出席者：広田長治郎、鎌田浩三郎、荒川清、鹿毛宏一、長大作

一般材料分科会（第7回） 3月10日 於 事務局

出席者：広田長治郎、鎌田浩三郎、長大作

以上のような状況ですが、一般材料では項目の分類整理に先ず重点をおいて作業しておりますが、進むにつれてどのような記述をすべきか方針が定ま

らず難航しております。又個々の材料について調べるほどに各委員の知識不十分のためしばしば暗礁にのりあげるといった状態です。

このような状況打開のため次回から必要に応じて各材料に関する会員外の専門家を臨時に招いて、各材料、工作等についての解説や各種の意見をうかがって参考にすることにした。

その手始めとして金属材料について金属百貨店の星山氏を招き、各分科会合同の委員会を開くことにしております。（４月初旬の予定）

・椅子類分科会

田 中 聰 行

４１年７月６日仕様書委員会にて一般材料、箱物、椅子各分科会のメンバーを構成し各分科会毎に別個に活動することを決める。

部会の第１回会合、７月２６日、出席者、長委員長他８名、事務局にて行う。内容、委員会の主旨並びに現在までの経過説明ののち当部会の性格を工作法の研究とし補足して材料も扱うことを方針とする。第一議題「項目別分類」とし１構造、１' 接着剤、２上張、３下張、４補助材、５塗装、６その他とする。さらに１構造、２上張、３下張について検討し研究を要するものについては次回にゆずることにした。

部会の第２回会合 ８月１２日 出席者、長委員長他３名。事務局にて行う。前回に引き続き項目別分類を行なうには出席者少数のため第二議題「名称の統一」を討議した。

内容。椅子名称については全家工による名称、総理府による名称、税法上の名称等があるが一応総理府の名称を適当とし次回に再検討することとした。部品の名称は各種構造を見取図に作成し討議することにした。 以上

・一般材料分科会 報告なし。

・箱物類分科会 報告なし。

・資料委員会

委員長 坂 田 種 男

４１年度の資料委員を、お引き受けしながら十分な目的を達せず申し訳なく存じております。

現在各雑誌や単行本に沢山のデザイン的な資料、その他マーケティング関係

の資料がありますが、これは各位においてすでにお目を通されているかと存じますので海外関係、その他のすでに出版されているものについて2、3で紹介しておきます。

① L . A R T M E N A G E R P A U L B E R T O N (フ ラ ン ス)

住宅の建築、インテリア、家具、設備、器具、食器、家庭用品、照明器具など約1000頁にわたって、カラー、グラビアで説明されたモダンを中心としたもの。(価格10,800円)

② I N T E R I O R D E C O R A T I N G A N D E N C Y C L O P E D I A
O F S T Y L E S D O U B L E D O Y & C O M P O N Y . I N C . ,

インテリアデザインのモダンスタイル、其の他があり、その他クライアントに対するインテリアデコレーションの趣向調査アンケートの実例がある。

又、各時代家具様式が年代をおつて説明されている。——1965年版
(格価3,850円 360頁)

③ 商品建築企画設計資料集成(商店建築社発行)

本協会の中村圭介氏が執筆されている商店建築設計の資料集成、商店の平面計画、企画、商品構成、デイスカッションなどが集成されています。
(格価6,000円 500頁)

・月例会委員会

委員長 原 好 輝

1. 5月30日都道府県会館において41年度東京支部総会終了後、建築写真家川澄明男氏によるアルハンプラ及びアントニオ・ガウディの作品などスペイン建築のスライドの会を開催した。
2. 6月27日、日本都市センター本館において「インテリアデザインとは」のテーマによるパネルディスカッションの会を開催した。司会倉林益太郎氏、パネリスト水之江忠臣、三宅正郎、西海健彦、以上3氏。
3. 7月29日、都道府県会館において、白石勝彦氏のインテリアデザインに対する考え方を素材にしてディスカッションの会を開催した。
4. 9月24日、ツキ板メーカー株式会社ホクサン(当協会賛助会員)の深川工場及びショールームの見学会を開催した。
5. 10月28日、都道府県会館に於て、漆原美代子氏の「ヨーロッパより帰りて」と題するスライドと報告会及びその印象の座談会を開催した。

6. 2月1日、高輪プリンスホテルにおいて、新年宴会を開催した。
7. 2月17日、都道府県会館において、産業工芸試験所技官小関利紀也、出原栄一、両氏による団地世帯の座居様式について、食事団案についての型究報告会及びその家庭における団案についての座談会を開催した。

・ 広報部会

部長 榎 田 均

41年度から広報部会が新設され、会報の編集発刊を託されました。従来中村事務局長の神わざにも等しい活躍により支えられていた事を痛感しています。

この実績を更に拡張し内容的にも会員の皆様にもものにして行くため先ず編集委員会を構成し、編集方針を立て組織的に進めて来しました。

方針としては、1. 協会の内外に対する目、耳、口となる。

2. 親しまれる内容にするため、個々の発言の場を充実する。

3. 主張、論説等の誌上討議の場とする。

4. 特に地方会員の声を交す場とする。

委員には正会員の外、準会員の若手のメンバーに熱心に協力していただき編集会議も若い熱気で満ちています。しかし意欲と事務量のギャップの為、皆様のご声援に答えられないのが残念です。

今後の希望としては、編集、発刊に至る迄の事務処理の合理化とチーム・ワークにより内容を一層改善したいと考えています。そのためにも私達の支えになるのは皆様の素直なご投稿とご批判が一番強いと思います。

従来迄の主な活動内容は第25号の会報に引き続き、26、27、28、29号の5冊の編集、発行を行なつた他、会報の内容について皆様からアンケートをいただき、会員の会報に対する実態とその対策に大いに参考とさせて頂きました。

その他、部員の親睦と会議の内容を充実させるため、伊豆、天城山荘を川島織物の岩瀬会員のご協力を得てあつせんしていただき、編集会議をもちました。丁度嵐の中でしたが活発な討論が行なわれ全員非常に充実した会議が出来清々しい気分で帰京致しました。

月 例 会 報 告

月例会委員の都合もあり3月、
4月は例会が流会してしまい
ご迷惑をかけました。

・東京支部新年会

東京支部新年宴会は、2月1日(水)高輪プリンスホテル(プリンス会館)で開かれた。

参加35名、山口支部委員長の挨拶に引き続き、協会と会員の発展、健康を祝し乾杯……以後飲み放題(ビール)喰い放題に移り、各々テーブルを囲み、なごやかな会を開いた。箕原正氏、本多正枝氏の紹介があり榎田氏の指名により協会の今後の方向等に就いて話し合い21時アルコールも程良いところで解散した。

来年度は是非1月中に新年会を開く事を希望し、報告を終わります。(2月1日よりプリンス会館のバイキングが¥1,500-になるので今年は2月1日に開かれました。

4 2.3.2 4 鈴 木 栄 二

・2月例会

(団地世帯における生活様式について)

2月17日都道府県会館において、産工試技官、小関利紀也、出原栄一両氏を講師にお招きし「団地世帯の座居様式、食事団らんについて」と題する生活様式の機能分析による調査、研究の発表会を開催した。その内容は産工試研究レポート№46(当日出席者全員に配布)及び会報28号(66年12月発行)にも資料として要約を掲載しているのでここでは触れず、この研究に関して、僕の個人的な感想を簡単に記してみたいと思います。

この研究の対象となつている公団住宅は、他の一般住宅(民間アパート等も含む)から見ると、そのパーセンテージがまだ低いとはいえ、日本における中堅勤労者世帯のモデル・ハウスのものとして建設された、国家的建設

行政の現われなのですから、この調査・研究により、色々な事を知り、改めて考えさせられる事の多い、そういう意味での意義のある会だつたと思います。この居住者である中堅勤労者世帯は、勿論、生活水準においても平均以上の人達であり、これらの人達の住まいになっている日本の現状を見ると、この調査・研究から、今後、増々建設されるであろう公団住宅を始め、この種の住宅の、より良い方向が見いだされればと考えるのは、僕ばかりではないと思います。

卒直にいつて、現在の公団住宅のスペースではどうしようもない、理想的なインテリア空間を構成するには不可能じゃないかというのが、僕の実感なのです。私達が今迄インテリア・デザイナーとしてタッチして来た仕事は、住宅にしてもある程度スペースにもゆとりのある、生活空間として、変化、個性を持たせる事の出来るレベルのものだつたと思うのです。プロ・デザイナーに仕事を依頼するには、それは当然かもしれません。しかし、それでは公団住宅は、スペースが狭いからプロ・デザイナーの対象にはならないかという、僕はそうは思いません。これは、僕ばかりでなく、インテリア・デザイナーである会員の多くの人の考えもそうじゃないかと思うのです。我々インテリア・デザイナーは公団住宅などこの種の住宅スペースの現状に対して、どの様にアツピールしてゆくか、理想的な方向に持つてゆくにはどうしたら良いか、今後の重要な問題として、考えなければいけないと思うのです。例えば、現在の基本プランの再検討、新しいスペース・プランの提案、その家具などの生活用具との関係は、など、すぐ出来る問題から、もつと巾広い解決を必要としている問題迄含めて、新しいアイデアによる、具体的な構想を進めてゆく必要があると思います。そうでなければ、この種の基礎調査である研究もまったく無意味になつてしまう恐れもあります。莫大な国家費用を使つて建設されるのですから、都市総合計画の一貫として世界に誇れる、本当のモデル・ハウスにしなければ、意識の高いインテリアは望めないと思います。公団住宅を単なる④の住まいにしてしまわない為にも、インテリア・デザイナーは社会性、人間性の意識が高い職業だと、社会全般から認められる為にも、ここいらではつきりした行き方を見せる、良い機会のように思えるのですが…………。

——事務局便り——

○コペンハーゲントレードフェアに付て

1967年のコペンハーゲントレードフェアの参加要項がトレードフェアの委員会から参りました。期日は10月20日から29日迄の10日間です。当協会ではデザイン団体協議会に計ると全時に関係各会社に打診しております。以下に概略をのせますが、詳細は事務局にお問い合わせ下さい。

トレードフェアは“HOME”に集約され次の部門からなります。

- | | |
|--------------------------|------------------|
| A 国際的パビリオン | D 家具及び室内備品 |
| B 庭園とレジャータイム | E 各国からのインテリアデザイン |
| C トレードセンターとコンパクト
スタンド | F 台所設備品、金物、ガラス器等 |
| | G モダンキッチン |

○会員章について

先に正会員渡辺優氏にお願いしてありました会員章が出来上り、理事会で発行が承認されました。新年度に交付の予定です。

○マークについて

12月の会報でお願いしましたマーク公募に関してはすでに数名の諸氏から応募いただきましたことを感謝しております。なおこの際ですので一層多数の諸氏から応募していただきたいので、切期日を延期致します。

振つてご参加下さい。 〆切日6月末日

○持・渡辺両氏復帰

持勇・渡辺力両氏が3月付けで、久々に正会員として当協会に復帰されました。東京支部の選挙名簿に突然名前がのつたので不思議に思われた方があるかも知れません。事務局の失手際おゆるし下さい。

○伊藤氏時氏死去さる。

去る1月11日、正会員、伊藤得時氏(高島屋東京支店装飾部勤務)が亡くなりました。即日当協会からは岩瀬要三氏が代表でお通夜に出席されました。氏のごめい福を祈ると共に、会員諸氏にお知らせ致します。

新 入 会 員 ご 紹 介

正会員 11名

準会員 1名

正会員（東京） いま さき つくむ
今 崎 務 （昭和12年7月23日生）

千葉大工業短期大学部木材工芸を36年に卒業後剣持デザイン研究所に勤め現在に至っております。その間第1回、第3回コスガコンペと第3回、第4回夫童木工コンペにそれぞれ入選されています。

作品としては第1回コスガコンペ（休息椅子）拓銀札幌駅前支店のインテリアを含む5点で推薦者の狩野雄一、内堀繁生両氏は「秀れたデザインの才能とファイトと実行力をもち、常に自己のデザインに対して、厳しい姿勢をもって追求し数々のコンペに入選されその作品にみられる独創性と深い技術の裏付がうかがえ将来を期待できる」と推薦されています。

現住所 杉並区西高井戸2-33 TEL(334)2318

勤務先 ㈹剣持勇デザイン研究所 TEL(952)0195~7

正会員（東京） きた はら すすむ
北 原 進 （昭和12年2月17日生）

東京芸術大学美術学部工芸科を36年に卒業し、㈹東横、白木屋設計室パンフィック・ハウスを経て、㈹フォルム・インターナショナルに勤務されています。作品としては、湯沢スキーロッジの建築とインテリア、スタンダード通信社を含むインテリア5点で推薦者の鈴木富久治、原好輝両氏は「最近インテリアの仕事を本格的に取り組み経歴、実力、実績、人格等十分で喜んで」推薦されている。

現住所 杉並区和泉町75 TEL(321)3272

勤務先 ㈹フォルム・インターナショナル

TEL(404)7001

正会員（東京） こ いずみ かつ や
小 泉 克 也 （大正15年12月5日生）

東京農工大学、桑沢デザイン、リビングデザイン科を経て中村工芸㈹の設

計後、㈱カーター・アート社を自営しみずからデザインを担当しております。
作品としては喫茶店のインテリア全般を含む5点で推薦者の山口勇次郎、西
海哲雄の両氏で「メーカーの立場で常に熱心で研究意欲に燃えて工作面にあ
かるいデザイナーとして充分資格がある」と推薦しています。

現住所 目黒区月光町123 TEL(713)9605

勤務先 ㈱カーターアート社自営 TEL(713)9605

正会員(東京) はし ぐち とし お 橋 口 敏 男 (昭和7年11月15日生)

三好木工㈱で長い間モチーフデザイナーとして活躍され、今年の1月は、
リモダンフアニチアーセールのチーフデザイナーをしております。

三好木工時代に第2回コスガコンペと第2回天童木工のコンペに入選され、
室内にも数々の著作を発表しております。

作品としては、天童木コンペ(テーブル)、コスガコンペ(ダイニングテ
ーブル)を含む5点で、推薦者の中村圭介、今井滋両氏は「まともすぎる程
の作品に橋口さんの性格があらわれ今迄の長い経験と個性的なしつかりした、
デザインのできるデザイナーだ」と推薦しています。

現住所 北多摩郡保谷町富士町1-7-33-2

勤務先 ㈱モダンフアニチアーセール(新大手町ビル1階)

TEL(211)8351

正会員(大阪) かわ はら けい すけ 河 原 啓 介 (大正11年11月11日生)

昭和19年に現在の京都工芸繊維大学建築科を卒業し、七洋木材工芸㈱、
大丸木工㈱を経て現在は大阪立体デザイン事務所を自営し、自からデザイン
に当たっています。作品としては、食堂卓子及び椅子、ロッキング、チェアー
を含む5点で推薦者の川崎浩、岡村実の両氏は「インテリアの設計、木工業
の製作管理の経験を生かし、デザイン事務所を独立、自営し誠実な人格と堅
実な作品で常に創作意欲をもつて、新しいデザインにより新しい社会作りに
つとめていると今後の奮闘を大いに期待する」と推薦しています。

現住所 大阪府豊中市服部寿町1-10 B-405

TEL 豊中(63)261内線102

勤務先 大阪立体デ事務所自営 TEL 豊中 (6 3) 2 6 1 内線 1 0 2

正会員 (大阪) こ だま じゆん きち
児 玉 潤 吉 (大正 7 年 4 月 1 5 日生)

昭和 2 4 年からテキスタイルデザインで自営し、2 9 年から倉敷紡績 (株) のチーフデザイナーとして活躍中です。作品としては、ドレープ・プリント、カーテンを含む 5 点で推薦者の藤川宏充、野口茂両氏は「長い経験にわたって商品価値の高いパターン・デザインの商品開発をやり常に意欲的にインテリア、ファブリックの量産デザイナーとして大いに期待できる」と推薦しています。

現住所 大阪府泉大津市助松団地 4 2 - 4 0 5

TEL 泉大津 (3) 6 3 7

勤務先 倉敷紡績 (株) TEL (2 7 1) 1 2 6 1 内線 5 8 8

正会員 (大阪) つ げ げん きち
拓 植 厳 吉 (昭和 2 年 6 月 2 1 日生)

旧制の京都市立美術専門学校図案科を 2 4 年に卒業され、モダンアート協会会員の中村真に師事し、(株) 七彩工芸設計課に移りインテリア全般にたずさわっています。ルームアクセサリーのデザインで大阪市長賞を受賞され、ジャパンインテリア (1 9 6 3) 4 6 3 と商店建築にも著作があります。

作品としては、ルームアクセサリー、織通を含む 5 点で推薦者は森岡正、野口茂の両氏で「経歴、職種の示す如くルームアクセサリーのデザイン制作にあたり、ユニークな作品を数々残しこの種の方以外のロテキスタイルデザイナー達の協力を望みます」と推薦しています。

現住所 京都市左京区下鴨南芝町 4 - 1 TEL (7 9) 1 8 2 7

勤務先 (株) 七彩工芸 TEL (2 2) 3 2 4 9

正会員 (大阪) ふ さ たに もり あき
房 谷 守 啓 (昭和 1 4 年 1 1 月 3 0 日生)

大阪市立工芸高等学校木材工芸科を卒業後、稲田 (株) を経て、(株) 大丸家具装飾課に勤務するかたわら、雑貨デザインコンクールで数々の入選作があり、ミートグラスには建具のデザインの著作もあります。

作品としては、ホテルロビー、トレーラーハウスを含む 5 点で推薦者は川

崎浩、柏原秀夫の両氏で「百貨店の家具装飾デザイナーとして広範囲な顧客層に対するデザインの幅と豊富な経験でコンペにも参加し優秀な成績と温和な人格で地味な中にも新しいデザインを常に追求する意欲がうかがえ今後の大きな活躍に期待し得るものと確信できる」と推薦しています。

現住所 大阪府守口市金田町3-212 TEL(996)5928

勤務先 ㈱大丸大阪店家具装飾設計 TEL(271)1231

内線388

正会員(大阪) ふじのよしひろ 藤野義弘 (昭和9年11月7日生)

堺市立工業高等学校木材工芸科を卒業以来㈱高島屋工作所に勤務されています。その間、コスガコンペ、天童木工コンペやOSGにも数々の入選作があり、作品としては、コスガコンペ(食事用椅子)、朝日放送のロビーを含む5点で推薦者の森岡正、飯田俊彦の両氏は「高島屋の家具工場に勤務しながら独創性を生かし、また製作工程を生かし、これを充分に活用して常に漸新なデザインに取り組み意欲的な作品を発表している。彼の如き若手が入会することは、協会に新風を導き入れるために大いに期待できる」と推薦しております。

現住所 大阪府松原市清水町145 TEL0723(8)7645

勤務先 ㈱高島屋工作所 TEL(651)0665-9

正会員(大阪) よしはら もとえ 葭原基 (大正14年11月19日)

新潟県立高田工業学校木材工芸科を卒業後、現在の飛騨産業㈱の生産技術部門として大阪製図専門学校建築製図科を卒業し現在はチーフデザイナーとして、また岐阜県木工デザイン協会、岐阜県室内装飾設計士協会の理事を兼務しております。第1回ジャパンファニチャーショーにて内閣総理大臣賞授賞と数々の入選作があります。推薦者の森岡正、樋口治の両氏は「量産メーカーのチーフデザイナーとして、マスプロ、セールの優れたデザインの家具を生み出し協会員として優秀な方だ」と推薦しています。

作品としては、リビングチェア、ダイニングチェアを含む5点です。

現住所 岐阜県高山市片野町1363 TEL高山(2)6588

勤務先 飛騨産業㈱

TEL 高山(2)1001

正会員(大阪) まつ だ す み お
松 田 寿 美 夫 (大正14年12月1日生)

大阪市立工芸高等学校木材工芸科を卒業後、㈱大丸大阪店家具装飾設計のチーフデザイナーとして活躍しておられます。

作品としては、居間、食堂の家具一式で推薦者の川崎浩、三上泰伸の両氏は「企業内デザイナーとしては珍らしく職場の稼動もなく、家具装飾の設計ひと筋に20年を経て、その広範囲にわたる豊富な経験と、豊富な作品はチーフデザイナーとして顧客の賞讃のまどである。穩健、誠実な人柄は、同僚部下の信頼を得ており、作品には伝統的なデザインを現代風に表現のできるデザイナーとして」推薦しております。

現住所 大阪府堺市日置荘西町1091 TEL堺(85)0656

勤務先 ㈱大丸大阪店家具装飾設計 TEL(271)1231

内線388

準会員(大阪) うめ がき ひろし
梅 垣 浩 (昭和7年4月9日生)

京都市立工業高等学校木材工芸科を卒業後、大丸大阪店に入社後納10年間売場で直接販売し貴重な人生体験を積んで現在の家具装飾設計のチーフデザイナーとして活躍されております。

推薦者の川崎浩氏は、長い売場生活から転じ、技術上のブランクを誠意とバイタリテイで短時間にとりかえしそのユニークな作風は衆人の注目するところである。又チーフとして、部下の指導、育成にあたり、その面でも業績が著しいと推薦しています。

現住所 京都府乙訓郡向日町寺戸西垣内13-19

TEL(92)9044

勤務先 ㈱大丸大阪店家具装飾設計

TEL(231)1231

内線388

会 員 の 近 況

伊 藤 利 一 （コスガ）

- ・3月16日より19日まで会員田中聡行氏、原好輝氏等デザインの新作家具の展示会をコスガコンテンポラリーファニチャー展に合わせて行ないました。

今 井 滋 （フリー）

- ・北海道方面出張中

狩 野 雄 一 （千葉大）

- ・著書「住居学」建泉社発行、
「曲りかどのインテリア」中央公論社発行「暮しの設計」

榎 本 厚 （三越）

- ・三越設計室が日本橋本店ならび（日本橋寄）三越南別館2階へ移転致しました。
- ・三越南別館1階に三越インテリア・ショールームを開設しオフィス・ファニチャーを中心に家具を展示致して居ります。
是非お立寄り下さいましてご批評ご鞭撻お願い致します。

小 林 保 治 （三葉工業）

- ・昨秋マキシムドバリ設計完成（アールヌーボー）
ソニービル地下ですから是非一度お立寄り下さい。
- ・香川県建築学会ゼミナールを行ないました。

佐々木 達 三 （フリー）

- ・プラスティックによる壁画を作りました。大きさは3,600×1,400で場所は伊勢丹会館2階ロシア料理店「ペーチカ」の依頼で画題はコーカサス風景です。陶器の肌を思わす様な材質感です。

白 石 勝 彦 （松屋）

- ・2月1日より住居表示が変更になりました。
新住所名 世田谷区上馬町3丁目18番7-403

鈴木 富久治 (フリー)

- ・ 41年10月より千葉大学工業短期大学部講師に任命された。

田中 聡行 (フリー)

- ・ 41年11月下旬、城南信用金庫溝ノ口支店の客溜り、応接室、家具設計管理を終了した。
- ・ 41年12月下旬、コスガ・リビングセットのデザインを終了した。
- ・ 41年10月、事務所の住居表示変更により次のようになりました。 東京都港区南青山7丁目6番10号

田中聡行 デザイン事務所

- ・ 42年1月、家具産業に“デザイナーとその作品”を掲載

中井 太一郎 (フリー)

- ・ 防衛庁第2次関境改善規格(ベット等寝室用品)作成を担当し6月末試作調達を終了し、6カ月間実用試験を行ない、43年度本調達を実施します。なお、第1次改善規格(居住、食堂家具)の作製を担当し、40年度約2億円の調達実施を完了しました。
- ・ グリーン・ベット(三井物産発売)デザイン開発完了、全国的な発売を開始。

原 好輝 (フリー)

- ・ 足立区新庁舎 家具設計を完了し2月に施工に入ります。

藤原 庸弘

- ・ 2階建木造住宅設計中

榎田 均 (公務員)

- ・ 日本優秀デザイン商品輸出事業のデザイン・ブロック会議のため、仙台、九州、大阪、名古屋に3月22日より月末まで出張しました。

村松 洋雄 (生和木材工業株式会社設計部)

- ・ 自宅に電話が入りましたのでご連絡致します。
- 横浜(045)49-9959

村 井 麗 子 (フリー)

- ・世田ヶ谷信用金庫六本木支店ロビー家具2月3日竣工。

鵜沼、清水邸別邸(120 m²)建築設計、工事管理中、3月竣工予定。

- ・2月5日渋谷カトリック教会において結婚式を挙げられました。

結婚後の住所、姓名 練馬区桜台3-39 立野方

TEL 991-3836

田 辺 麗 子

森 谷 延 周 (豊口デザイン研究所)

- ・モントリオール万国博日本館付設レストラン、インテリア設計中。
- ・第7次日本産業巡航見本市特設ブース展示設計中。

有 川 勲 一 (フリー)

- ・ドライブイン(≒500 m²)設計中
- ・住宅設計中(150 m²)
- ・バー歩設計中(50 m²)
- ・寿司店設計中(150 m²)

大 橋 滋 男 (フリー)

- ・42年1月より下記に事務所をつくりました。どうぞよろしく。 東京都新宿区矢来町106 TEL 268-1078

恒岡・大橋デザイン研究所

梶 谷 通 男 (東京家具工業株式会社)

- ・1月25日海洋研究用標本箱製品化の運びとなりました。

小 菅 澄 男 (原好輝デザイン事務所)

- ・足立区新庁舎家具設計竣工(2月)

佐 藤 雅 子 (フランス留学中)

- ・アール・デ・コールでゴーチエ・ドレイエという教授のアトリエに入学、一步海の外に出てみるとあらたに日本を感じます。ドイツ、オーストリー、スイスを通りお正月はスイスで

過しました。

野 水 ユキコ (フリー)

- ・ 2 月末に出産致しました。4 月頃から又仕事を始めます。
- よろしく願います。

三 宅 正 郎 (フリー)

- ・ 小名浜ショッピングセンター(福島)建築設計完了、工事管理中。
- ・ 住宅(鉄筋コンクリート 300 m²)設計中
- ・ レストラン、ニュー・ハマ 改装インテリア設計中

山 本 純 子 (フリー)

- ・ 昨年8月より12月まで竹内篤デザイン事務所所属として、日本産業巡航見本市船“さくら丸”の設計を手伝う。

石 川 四 郎 (内外木材工業株式会社)

- ・ 町名変更になり、茨木市双葉町9号24番になりました。
- 電話も、22-3692になりました。

合 田 正 甫 (日建設計工務、大阪事務所)

- ・ 大阪銀行協会、阪神ホテルのインテリア工事

庄 子 長 文 (株式会社宝鑄工所)

- ・ 6月より技術部より第1製造部部長代理に変わりました。
- 量産家具3点設計完了、量産により好調な売れゆきです。

並 川 拓 史 (フリー)

- ・ クラブ・マーマレ家具工事設計(梅田)

野 口 茂 (京都工芸繊維大学)

- ・ 発泡ウレタンホームのインサートモールドチェアへの試作
- ・ 松下電工プレハブ住宅の一部インテリア完了
- ・ 日本繊維新聞、松下電工で講演しました。
- ・ 京都工芸繊維大学、大学院学生の授業の他に関西意匠学会の事務局の仕事をしています。

● 平 井 進 (フリー)

- ・ 会についての意見、協会発行の設計契約書を高級用紙にて全

会員の利用を進めてほしい。

渡 辺 敏 雄 （安井建築設計事務所）

- ・昨年8月大阪ガスビルディング照明及びインテリア全般デザイン完成（大阪）
- ・10月東京に於ける日本デザインハウス発足に際して「産業とデザイン」展に出品
- ・10月阪神相互銀行本店照明及びインテリア全般デザイン完成（神戸）
- ・11月野村総合研究所照明及びインテリア全般デザイン完成（東京）
- ・12月野村証券五反田支店インテリアデザイン完成（東京）
- ・著作 近畿建築士会々誌「ひろば」1967年1月号に「照明とインテリア」発表を致しました。

樋 口 治 （大阪高島屋）

- ・作品 杉の井ホテル、新大阪駅貴賓室、特別室、関西汽船、沖縄航路沖之島丸インテリアデザイン全般完成

編	集	後	記
---	---	---	---

会報がすっかりおそくなつて申し訳けありません。会員の皆様はお仕事に
おいそがしい事と存じます。

広報部会も早や一年を経過しようとしています、会報も皆様のご意見や
好企画などを取り入れて一層充実した内容に編集していこうと、広報部員一
同色々と検討し、議論をかわしてまいりましたが、まだまだ皆様のご意見や
ご批判を完全に消化しきれない点があつたと思います。この点につき部員一
同反省しております。

4月からは年度変わりになり、部員の改選もあるかと思いますが、会の一
員として今迄以上に広報部への近況、投書等のご意見をおよせ下さることが
会報の内容を完全に近いものにするためにも会員皆様のご協力をお願い致し
ます。

（織田）

日本室内設計家協会 東京都渋谷区神宮前 1-14-34 森ビル 403-6647
振替 東京 76389